

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	イデアITカレッジ阿蘇
設置者名	学校法人 イデア熊本アジア学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	ITソリューション学科	夜・通信	1312時数	160時数	
文化・教養専門課程	地域観光デザイン学科	夜・通信	1296時数	160時数	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ情報公開 <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	イデアITカレッジ阿蘇
設置者名	学校法人 イデア熊本アジア学園

1. 理事(役員)名簿の公表方法

ホームページ情報公開 <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	他校関係者	2025.5.30~ 2029.5.29	他校経営者としての、経営感覚を学校経営に反映させる。
非常勤	企業代表	2025.5.30~ 2029.5.29	企業経営者としての、経営感覚を学校経営に反映させる。
非常勤	企業代表	2025.5.30~ 2029.5.29	企業経営者としての、経営感覚を学校経営に反映させる。
非常勤	企業代表	2025.5.30~ 2029.5.29	企業経営者としての、経営感覚を学校経営に反映させる。
非常勤	他校関係者	2025.5.30~ 2029.5.29	他校経営者としての、経営感覚を学校経営に反映させる。
非常勤	地元代表者	2025.5.30~ 2029.5.29	地元代表としての、意見を学校経営に反映させる。
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者(公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等)は、この様式を用いること。

学校名	イデアITカレッジ阿蘇
設置者名	学校法人 イデア熊本アジア学園

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	学校法人イデア熊本アジア学園 学校関係者評価委員会
役割	学校の自己評価結果報告書に対して意見を述べ、教育の改善を図る。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考(学校と関連する経歴等)
企業経営者	2年	注文式企業経営者
企業経営者	2年	注文式企業経営者
教育関係者	2年	他校学園長
教育関係者	2年	他校講師
保護者代表	2年	—
地域住民代表	2年	—
(備考)		

様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】(※学科共通)

学校名	イデアITカレッジ阿蘇
設置者名	学校法人 イデア熊本アジア学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年12月までに企業の動向、求人ニーズなどを聞き取り、それに対応する形で、翌年度の授業科目を策定する予定である。</li> <li>来年2月に教務会議を開催して、教員と情報を共有し、教員はそれに基づき、年度開始までにシラバスを完成する予定である。</li> <li>授業計画書の作成・公表時期 作成時期は、1月から2月末日まで。公開時期は、4月である。</li> </ul>						
授業計画書の公表方法		ホームページ <a href="https://iica.jp/">https://iica.jp/</a>				
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価基準 各授業科目の評価は、授業の到達目標の習熟度・理解度をもってなされる。また学習評価を多面的に行うために以下の評価基準を設け、教科の特性によりその中から2つ以上を選択することで、総合的な評価を行う。各授業科目の評価配分や実施時期、内容、方法については、シラバスの「成績評価の方法」欄に記載する。</li> </ul>						
時期	内容(例)	実施方法(例)	※評価配分(例)			
			①	②	③	
授業中	平常点	授業態度、出席率等	10%	30%	30%	
	課題	レポート、提出物の提出状況等	—	70%	—	
	理解度	小テスト結果、実技評価等	30%	—	70%	
終了時	終了試験	筆記試験等	60%	—	—	
評価の配分合計が100%になるように設定する			100%	100%	100%	
<p>・成績の評価は、各授業科目の評価は、学習状況や試験の成績をもとに次の評語によって掲示される。</p>						
評語	A	B	C	D	F	
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59点以下	失格

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対評価による毎期末の各学生に与えられた評価を各個人に通知するとともに、一覧表にして下位グループには、通常半年に1回行う面接に加えて、今後の進路について面談を行う。</li> </ul>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページ <a href="https://iica.jp/">https://iica.jp/</a>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>第一学年で履修すべき過程を修了し、かつ第二学年において履修すべき過程を修了した者のみを、卒業認定会議にて審議し、その結果に基づいて校長がこれを認定する。</li> </ul>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページ <a href="https://iica.jp/">https://iica.jp/</a>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表(専門学校)】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	イデアITカレッジ阿蘇
設置者名	学校法人 イデア熊本アジア学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>
収支計算書又は損益計算書	ホームページ <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>
財産目録	ホームページ <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>
事業報告書	ホームページ <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>
監事による監査報告(書)	ホームページ <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業	ITソリューション学科	○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,728単位時間/単位	931単 位時 間	686単 位時 間	687単 位時 間	—
			2,304単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
50人		30人	18人	5人	19人	24人

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養	地域観光デザイン学科	○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,728単位時間/単位	854単 位時 間	756単 位時 間	614単 位時 間	—
			2,224単位時間			
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
24人		9人	3人	3人	15人	18人

(※学科共通)

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

- ・今年12月までに企業の動向、求人ニーズなどを聞き取り、それに対応する形で、翌年度の授業科目を策定する。
- ・来年2月に教務会議を開催して、教員と情報を共有し、教員はそれに基づき、年度開始までにシラバスを完成する。
- ・授業計画書の作成時期は、1月から2月末日まで。公開時期は、4月である。

成績評価の基準・方法

(概要)

・評価基準

各授業科目の評価は、授業の到達目標の習熟度・理解度をもってなされる。  
また学習評価を多面的に行うために以下の評価基準を設け、教科の特性によりその中から2つ以上を選択することで、総合的な評価を行う。各授業科目の評価配分や実施時期、内容、方法については、シラバスの「成績評価の方法」欄に記載する。

時期	内容(例)	実施方法(例)	※評価配分(例)		
			①	②	③
授業中	平常点	授業態度、出席率等	10%	30%	30%
	課題	レポート、提出物の提出状況等	—	70%	—
	理解度	小テスト結果、実技評価等	30%	—	70%
終了時	終了試験	筆記試験等	60%	—	—
評価の配分合計が100%になるように設定する			100%	100%	100%

・成績の評価は、各授業科目の評価は、学習状況や試験の成績をもとに次の評語によって掲示される。

評語	A	B	C	D	F	
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59点以下	失格

卒業・進級の認定基準

(概要)

- ・絶対評価による毎期末の各学生に与えられた評価を各個人に通知するとともに、一覧表にして下位グループには、通常半年に1回行う面接に加えて、今後の進路について面談を行う。
- ・第一学年で履修すべき過程を修了し、かつ第二学年において履修すべき過程を修了した者のみを、卒業認定会議にて審議し、その結果に基づいて校長がこれを認定する。

学修支援等

(概要)

- ・絶対評価による毎期末の各学生に与えられた評価を各個人に通知するとともに、一覧表にして下位グループには、通常半年に1回行う面接に加えて、今後の進路について面談を行う。
- ・第一学年で履修すべき過程を修了し、かつ第二学年において履修すべき過程を修了した者のみを、卒業認定会議にて審議し、その結果に基づいて校長がこれを認定する。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
ITソリューション学科			
8人	0人	8人	0人
グローバルITビジネス学科			
6人	2人	3人	1人
学科合計			
14人 (100%)	2人 ( 33%)	11人 ( 79%)	1人 ( 7%)
<p>(主な就職、業界等) 就職希望者12人の就職率は92%であった。各学科の関係分野への就職としてIT企業、観光関連企業が、就職者数の73%を占めた。また、県内企業への就職が38%を占めた。</p> <p>(就職指導内容) 各学生の個別のキャリア指導、就職相談を行っている。また各学科の関係分野への就職として、注文式教育企業という提携を60社以上と行い、この企業の業界説明会、就職説明会を1年次から開催しながら就職へ結びつけている。</p> <p>(主な学修成果(資格・検定等)) 卒業制作、卒業プロジェクトで2年間の学修成果を企業の方々や講師にアウトプットする場を設けて、成果をまとめている。</p> <p>(備考)(任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
ITソリューション学科		
16人	2人	13%
グローバルITビジネス学科		
10人	0人	0%
学科合計		
26人	2人	8%
<p>(中途退学の主な理由) ・入学時からの進路変更により、就職等への進路が変わったため。</p> <p>(中退防止・中退者支援のための取組) ・入学時に進路の確認を行い、1年次前期から進路の選択について密に意見交換する。</p>		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
ITソリューション学科	100,000円	700,000円	200,000円	その他の教材教具費は、テキスト代や一人一台支給するパソコン、健康診断費用、保険代等を含む。
地域観光デザイン学科	100,000円	700,000円	200,000円	その他の教材教具費は、テキスト代や一人一台支給するパソコン、健康診断費用、保険代等を含む。
修学支援(任意記載事項)				
学費などの分納制度、学校独自の減免制度、留学生の減免制度を用意している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページで公表 <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) ・学生を対象としたアンケート調査をふまえて、「学校自己評価委員会」にて自己評価を行う。これを踏まえて、下記のメンバーにより「学校関係者評価委員会」を開催し、学校の理念、運営、授業内容、学生募集、就職へのアプローチなどについて評価をいただき、今後の学校運営の方向付けとする。R5年度の評価をR6年6月末まで開催して、その結果を公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
企業経営者	2年	実務経験
企業経営者	2年	実務経験
教育関係者	2年	教育関係者
教育関係者	2年	教育関係者
保護者代表	2年	保護者代表
地域住民代表	2年	地域代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページで公表 <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報(※学科共通)

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://iica.jp/information_iica/">https://iica.jp/information_iica/</a>
--